

7. 抵抗性誘導を利用した防除方法

本法は、非病原性微生物を用い、予め植物表面や体内に定着させることで、植物の病害抵抗性を持続的に誘導して効果を発揮する防除方法である。

ア ボタニガードESによる抵抗性誘導を利用した野菜類うどんこ病の防除

昆虫、ダニなどに病原性を有し、微生物殺虫剤として実績がある糸状菌 *Beauveria bassiana* が、植物表面及び体内に定着することで、病害抵抗性誘導経路を多面的に活性化して、うどんこ病に対する防除効果を示す。

製剤:500ml 入り (ポリボトル)、淡褐色懸濁可乳化油状液体

有効成分・保存性	使用方法	注意事項
ボーベリア・バッシア ーナ (<i>Beauveria bassiana</i>) GH A 株分生 子 1.6×10^{10} 個/ml 製造月より 1 年。密 閉して冷暗所に保存。	生物的防除方法の 4. 天敵資材によ る防除方法<施設 栽培トマトにおけ る防除技術>のエ を参照。	生物的防除方法の 4. 天敵資材による防除方法<施設栽培トマトにおける防除技術>のエを参照。 本剤によって誘導される抵抗性は、植物体の全身に獲得されるものではなく、処理部位のみに限られる。そのため薬液を散布する際は、作物全体にまんべんなく処理する必要がある、散布後に新しく展開した葉や芽についても追加で処理する必要がある。